資料-2

２－７　都市の課題

（注）策定委員会からのご意見や、今後開催する地域別懇談会、市民まちづくり会議や商工会議所との意見交換会の結果により、内容を追加・変更する場合があります。

２－７　都市の課題

分野別課題一覧表

分野	主要課題	個別課題
１　土地利用に関する課題	■都市機能の再生・集約	○市街地の再生と都市機能の集約 ○産業を活性化する土地利用の見直し
	■生活環境の向上と自然環境の保全	○周辺地域の生活機能の維持・向上 ○良好な住環境の維持、自然環境の保全
２　道路・交通に関する課題	■道路と公共交通の利便性の向上	○道路ネットワークの利便性の向上 ○公共交通ネットワークの利便性の向上 ○駅前駐車場の充実
	■歩行者に快適なまちづくり	○安全で快適に歩いて暮らせるまちづくり
	■自転車利用者に快適なみちづくり	○自転車利用を促進する道路環境の整備
	■広域圏における都市間アクセスの強化	○広域幹線道路の整備促進
３　自然環境及び公園・緑地に関する課題	■水と緑のまちにふさわしい自然環境の維持保全	○豊かな自然環境や農地の保全 ○河川環境の美化と身近な水辺空間の創出 ○河川や緑道、公園等の整備と維持管理
	■公園整備による住環境の向上	○身近な公園・広場等の計画的な整備 ○公園・広場等の維持管理の充実
４　生活環境に関する課題	■市民の日常を支える生活環境の充実	○高齢者・要介護者の生活環境の向上 ○子育て世代の生活環境の向上 ○地域交流施設の充実
	■安全で安心して暮らせる防災・防犯対策の充実	○災害対策の充実と老朽住宅等の耐震化 ○通勤・通学路等の防犯施設の充実
	■市民の暮らしを支える供給処理施設の充実	○上・下水道の整備・更新・耐震化 ○ごみ処理施設の計画的な運営・維持更新
５　景観に関する課題	■水と緑と歴史のまちにふさわしい景観の形成	○歴史的景観資源を活用した街並み景観の形成 ○水と緑の自然・田園景観の維持・保全
	■良好な市街地景観の形成	○市街地における良好な都市景観の形成
６　産業振興・交流に関する課題	■新たな雇用の場の創出	○多様な産業に対応できる産業基盤の整備
	■地域資源を活用した地域産業の創出	○忍城址・足袋蔵など地域資源を活用した地域産業の創出
	■観光資源ネットワークの構築	○忍城址とさきたま古墳公園・古代蓮の里等の観光資源のネットワーク強化 ○観光案内所や道路案内板等の充実

1　土地利用に関する課題

本市は、恵まれた自然と歴史・文化を背景に、県北部における中核的な都市として産業・経済・文化など様々な分野で発展してきました。

今後も、古くから受け継がれてきた豊かな自然環境と調和した都市的土地利用を図っていく必要があります。

さらに、人口減少、少子化・超高齢社会を迎える今後のまちづくりにおいては、都市機能が集約された効率的な都市のあり方が求められており、また、中心部と周辺地域のそれぞれの生活環境をさらに充実させていくことが本市の大きな課題となっています。

1）都市機能の再生・集約

（1）市街地の再生と都市機能の集約

市の人口は平成12年から減少傾向にあり、減少幅も増加しています。少子化や高齢化を要因とする今後の人口減少社会においては、市街化区域を拡大するなどの成長・拡大型のまちづくりではなく、人口規模に対して必要な都市機能を集約して適切に配置した都市のあり方が求められています。

人口減少のもう一つの要因として、市外への人口流出も深刻な問題です。古くはにぎわいをみせた中心部の求心力は失われつつあります。

都市が発展し持続していくには、市民が集まり、交流し、快適に過ごせる中心的な場所が必要です。古くから市の中心であり、商店街、公共公益施設、忍城址や足袋蔵などの地域資源など様々な都市機能をもつ中心部においては、更なる集約化とまちなかで暮らせる環境づくりが必要です。

一方、JR行田駅は乗降客数が最も多く、市民の通勤・通学や来訪者の受け入れの要衝となっていますが、市民アンケート調査では駅周辺の商業施設の集積など、市の玄関口としての更なる魅力づくりや、市中心部との一体性や連続性の強化が求められています。

市民アンケート調査では、特に北部地域や南東部地域において、暮らしやすさの満足度について、評価が低い傾向がみられます。

市民の暮らしの満足度を高めていくためには、中心部とJR行田駅周辺の整備だけではなく、地域住民の活動の拠点となる鉄道駅の周辺や、農村集落地における地域住民の日常生活を支援する機能の充実による利便性の向上が必要です。

＜市民アンケート調査結果＞

暮らしやすさの満足度について、地域別にみると、「満足」と「ほぼ満足」を合わせた割合は次のとおりである。

・日用品の買い物の利便性：中心部地域（78.0%）、西部地域（80.4%）、北部地域（42.4%）、南東部地域（35.6%）

・公共施設へのアクセスのしやすさ：中心部地域（61.9%）、西部地域（50.6%）、

北部地域（30.6%）、南東部地域（26.0%）

・公共交通（バス・鉄道）の利便性：中心部地域（48.7%）、西部地域（41.6%）、北部地域（25.6%）、南東部地域（19.9%）

＜都市計画マスタープラン策定委員会からのご意見＞

・これから先は、人口減少や財政難などの問題も踏まえて、従来のまちづくりの考え方を変えていく必要がある。

・人口が減り、税収が減ることにより、市民の安全・安心が守れず、満足度も低下し、さらに人口減につながることが、市の喫緊の課題ではないか。

【中心部】

＜市民アンケート調査結果＞

・中心部については「活気がない」が 47.5%で最も多く、次いで「どちらかといえば活気がない」が 41.5%となっており、合わせると約９割となる。

＜市民まちづくり会議からのご意見＞

・秩父鉄道行田市駅周辺や市街地の商店街は活気がなくなっているが、一方で、商店街の個人商店にはすばらしいヒト・モノやこだわりがあり、これら元気な商店を地域の活性化につなげる必要がある。

・商店街の再編の構想などは、早い段階に長期計画を定め、民間事業者等と連携を図りながら実現していく必要がある。

＜都市計画マスタープラン策定委員会からのご意見＞

・国道１２５号沿道や本町通、新町通の商店は閉店したところも多く、大規模店舗との競合や後継者の不在などが一つの要因と考えられるが、今後10年、20年先に市の中心部を活性化していくためにどのような計画を作っていくのかがまちづくりの大きな課題である。

【JR行田駅周辺】

＜市民アンケート調査結果＞

・「市のまちづくりを進めていくにあたり、最も重要な取組み」としては、「市の玄関口にふさわしい JR 行田駅周辺の整備」が 23.4%（16 項目中３番目）となっている。

・「市における今後の拠点整備の望ましい方向」としては、「市中心部と JR 行田駅周辺の一体性や連続性を強化する」が 35.2%で最も多くなっており、「JR 行田駅周辺に公共施設、商業施設などの業務機能や住居などを集積する」が 14.0%（5 項目中３番目）となっている。

・「市の玄関口である JR 行田駅周辺の利便性・魅力を高めるために必要なこと」としては、「市内各所への交通利便性の向上」が 58.8%で最も多く、次いで「公共施設や商業施設などの業務機能の集積」が 41.0%となっている。

＜市民まちづくり会議からのご意見＞

・JR 行田駅周辺については商業施設などの集積が必要である。

・JR 行田駅周辺の将来像を見定め、中長期計画に基づいて、戦略的に住宅開発や土地の高度利用等が可能な環境を整えたうえで、民間事業者による開発等を誘導していく必要がある。

（２）産業を活性化する土地利用の見直し

本市の就業人口は平成12年から減少に転じており、農業･工業の就業人口、事業所数も減少を続けています。

子ども会議においては、市内で快適に働ける仕事場があってほしいという意見を頂き、都市の魅力や利便性を高める一方で、市内に雇用の場を確保することは、人口減少対策の一環として、本市の都市づくりにおける重要な課題の一つです。

今後は、既存の工業団地の充実を図るとともに、変化しつつある産業構造に対応可能な、計画的な土地利用を図る必要があります。

市民アンケート調査では、これ以上の市街地拡大は避け、今ある市街地の充実を図るべきであるという意見の一方で、良好な市街地が形成されるのであれば、必要に応じて市街地を拡大してもよいという意見も多数上がっています。

国道や県道などの幹線道路の沿道については、有効な土地利用がされていないという市民からの指摘もあり、沿道サービス施設の誘導などによる有効活用も考えていく必要があります。

＜市民アンケート調査結果＞

・今後の土地利用の望ましい方向性としては、「良好な市街地が形成されるのであれば、必要に応じて市街地を拡大してもよい」が 47.4%で最も多く、次いで「これ以上の市街地拡大は避け、今ある市街地の充実を図る」が 32.2%となっている。

＜都市計画マスタープラン策定委員会からのご意見＞

・観光や商業の発展はもちろんだが、人口を増やして働き住んでもらうことが重要であり、産業団地の誘致など、若い人や働く人など幅広い世代が集まるような計画づくりをしていく必要がある。

・幹線道路沿道の有効活用も考えていく必要がある。

２）生活環境の向上と自然環境の保全

（１）周辺地域の生活機能の維持・向上

（注）「周辺地域」とは、市民アンケート調査の地域区分（中心部、西部、北部、南東部）における、北部地域及び南東部地域を示しています。（以下、同様）

市民アンケート調査では、これまでのまちづくりの取組みに対して、生活環境の改善についての評価が低い傾向にあります。地域別にみると、「排水施設の整備状況」や「身近な遊び場や公園」などの居住環境、「鉄道へのアクセスのしやすさ」、「公共交通の利便性」や「公共施設へのアクセスのしやすさ」などの暮らしやすさについて、中心部・西部地域と比較して、周辺地域の満足度評価が著しく低い結果が出ています。

さらに、今後の拠点整備の望ましい方向としては、「地域の生活拠点を充実させる」という意見が多数上がっています。

都市の魅力を高め、更なる人口減少を抑止するためには、都市機能の再生・集約を図るだけではなく、周辺地域において便利で住みやすい生活環境を確保し、暮らしの満足度を高めていくことが重要な課題です。

周辺地域においては、自治会を中心とした地域コミュニティの維持に向けた都市基盤整備や、身近な生活利便施設の充実が必要です。

＜市民アンケート調査結果＞

・これまでのまちづくりの取組みの評価では「生活環境の改善」が 36.5%（8 項目中最下位）と低くなっている。

・中心部地域や西部地域と比較して、北部地域・南東部地域では、居住環境：「排水施設の整備状況」や「身近な遊び場や公園」について評価が低い。また、暮らしやすさ：「鉄道へのアクセスのしやすさ」、「公共交通の利便性」、「公共施設へのアクセスのしやすさ」について特に評価が低く、まちづくりの施策：「道路・交通ネットワークの整備」や「生活環境の改善」、「下水処理施設の整備」についても特に評価が低い。

・市における今後の拠点整備の望ましい方向としては、「地域の生活拠点を充実させる」が 23.4%（5 項目中２番目）となっている。

＜地域別懇談会でのご意見＞

・公共公益施設や市中心部へのアクセスが悪く、買い物が不便である。（北部地域）

＜都市計画マスタープラン策定委員会からのご意見＞

・中心部や JR 行田駅周辺だけではなく、南河原地区をはじめとした周辺地域に対しても、きめ細やかな計画が必要である。

（２）良好な住環境の維持、自然環境の保全

今後の住宅地のあり方について、市民アンケート調査では、「市中心部や駅周辺などの既成市街地に住宅地を集積し、質の向上を図るべきである」という意見が多数上がっています。

既存の住宅地については、周辺の環境と調和した良好な住環境を維持する取組みや、工場や住宅が混在する市街地においては、住環境の悪化を規制する取組みが必要です。

一方で、「市中心部や郊外を問わず、市全域に住宅地を増やしていく」という意見が多数あがっています。

鉄道駅や公共公益施設へのアクセスが良好でポテンシャルの高い地区などにおいては、ゆとりある住居系の土地利用への見直しを図る必要があります。

自然環境に関しては、集落や田園などの農村風景の美しさや、水や緑など自然の身近さ、豊かさに対する市民の満足度が非常に高い傾向があります。

河川や水路、屋敷林などの自然環境は、都市的な土地利用と調和を図っていく必要があります。

＜市民アンケート調査結果＞

・今後の住宅地の望ましいあり方としては、「市中心部や郊外を問わず、市域全体に住宅地を増やしていく」が 41.0%で最も多く、次いで「市中心部や駅周辺などの既成市街地に集積し、質の向上を図る」が 28.8%となっている。

・ゆとり、うるおいについて、「満足」と「ほぼ満足」を合わせた割合は、「集落や田園などの農村風景の美しさ」が 77.6%、「水や緑など自然の身近さや豊かさ」が 76.2%と高くなっている。

・今後の農地の望ましいあり方としては、「農業者を支援し、生産機能の向上と活性化を図る」が 43.5%で最も多くなっている。

＜市民まちづくり会議からのご意見＞

・良好な住環境を形成するためには、それぞれの地域にあったルールづくりなど、長期的な取組みが必要である。

・行田市の環境にふさわしい住宅地のあり方を検討していく必要がある。

・JR 行田駅周辺のようにポテンシャルが高くインフラ整備も整ったエリアの有効活用も考えていく必要がある。

2　道路・交通に関する課題

人口減少、少子化・超高齢社会における今後のまちづくりにおいて、市民の生活環境を向上させるためには、多様な都市機能を集約した拠点となる市街地を形成し、誰もが歩いて楽しいまちづくりを進めるとともに、中心部の集約拠点と周辺地域を結ぶ交通ネットワーク機能を強化することが重要な課題です。

道路・交通については、市内外の移動を円滑に移動できる幹線道路や生活道路の充実や、公共交通ネットワークの強化、駅周辺の駐車施設の充実など、市民生活を支える道路交通環境の利便性の向上が求められています。

また、広域的な都市間連携の強化、産業及び観光振興の促進に向けて、広域幹線道路ネットワークの強化や、平坦な地形を活用した自転車交通環境の充実も必要です。

１）道路と公共交通の利便性の向上

（１）道路ネットワークの利便性の向上

市民アンケート調査では、暮らしやすさの満足度について、幹線道路や生活道路の整備に対する満足度が高い傾向がありますが、一方で、鉄道各駅への交通アクセスの利便性の低さが指摘されており、そのことが本市における生活環境の魅力を低下させている一因と考えられます。

また、まちづくりを進めていくにあたり、最も重要な取組みとして、「安心して利用できる生活道路の整備」という意見が多数寄せられており、市民まちづくり会議においても、生活道路の安全対策や歩行者空間の充実、魅力的な沿道整備の必要性など、道路の質的向上を求める意見があがっています。

市内外を結ぶ幹線道路や、日常生活で利用される生活道路に関しては、今後も生活環境の利便性の向上に向けた道路ネットワークの強化を図っていくとともに、安全性や快適性に加えて、周辺の景観や環境に配慮したみちづくりを進めていく必要があります。

また、道路や街路樹の維持管理が十分にされていないというご意見もあるため、計画的な維持管理を図るとともに、地域住民と連携した道路環境の保全についての取組みも必要です。

＜市民アンケート調査結果＞

・暮らしやすさの満足度について、「満足」と「ほぼ満足」を合わせた割合は、「幹線道路の整備」が 67.8%で最も高く、次いで「生活道路の整備」が 64.4%となっている。

・市のまちづくりを進めていくにあたり、最も重要な取組みとして、「安心して利用できる生活道路の整備」が 30.7%（16 項目中２番目）となっている。

＜地域別懇談会でのご意見＞

・地域間を結ぶ道路網が不足している。（南東部地域）

＜市民まちづくり会議からのご意見＞

・南北方向道路の充実の他は、市内の住環境保全のためにも、新たな幹線道路の整備は抑え、歩行者空間の充実や魅力的な沿道整備を行う等の質的向上を図ることが必要である。

・幹線道路において歩道整備が進められているが、依然として未整備の箇所の整備が必要である。

・道路や街路樹の整備・維持管理が十分にされていない箇所の整備が必要である。

＜都市計画マスタープラン策定委員会からのご意見＞

・若い人に住んでもらうためには、JR など鉄道各駅への交通アクセスの改善が必要である。

・若い家族が行田市に来て子どもを増やしていくには、生活圏、生活道路、生活の足を整備することが必要である。

（２）公共交通ネットワークの利便性の向上

市民アンケート調査では、暮らしやすさの満足度について、「公共交通（バス・鉄道）や鉄道へのアクセスのしやすさ」への評価が低いという傾向が出ています。また、まちづくりを進めていくにあたり重要な取組みについては、「市内を行き来しやすい公共交通機関の充実」が最も多くなっています。

地域別懇談会においては、中心部・西部地域では「南大通線の開通により市内循環バス路線が充実した」とのご意見がある一方で、南東部地域では「ＪＲ各駅への公共交通手段が充分ではない」との指摘があります。

このように公共交通の利便性の低さは、本市における生活環境の魅力を低下させる大きな要因のひとつであり、今後の超高齢社会を迎えるにあたって、改善すべき重要な課題です。

これからのまちづくりでは、中心部に都市機能を集約した市街地を形成するとともに、周辺地域の生活利便性や快適性を向上するため、鉄道事業者やバス事業者と連携し、公共交通ネットワークの更なる充実を図る必要があります。

＜市民アンケート調査結果＞

・暮らしやすさの満足度について、「満足」と「ほぼ満足」を合わせた割合は、「公共施設へのアクセスのしやすさ」が 42.0%、「公共交通（バス・鉄道）の利便性」が 33.7%、「鉄道へのアクセスのしやすさ」は 33.6%と低めになっている。

・市のまちづくりを進めていくにあたり、最も重要な取組みとしては、「市内を行き来しやすい公共交通機関の充実」が 34.3%で最も多くなっている。

＜地域別懇談会でのご意見＞

・南大通線の開通により市内循環バス路線が充実し、JR 行田駅への利便性が高まった。（中心部地域、西部地域）

・ＪＲ行田駅・吹上駅・北鴻巣駅への公共交通手段が充分ではない。（南東部地域）

＜市民まちづくり会議からのご意見＞

・市内循環バスは観光利用しやすい設定がされているものの、利用率が低い状況にある。

・JR 行田駅からの路線バスがない。

・JR 行田駅よりもＪＲ吹上駅の方が、市民に多く利用されている。

・鉄道、バスを含めた市内の総合交通体系のあり方について、行政・民間事業者・市民が協働して取り組む必要がある。

・市内循環バスについては、高齢者・観光客それぞれのニーズを把握し、利用率向上につながるルートの設定や運行本数について検討する必要がある。

＜都市計画マスタープラン策定委員会からのご意見＞

・JR 吹上駅と市街地を結ぶ軸という考え方もあり、広域的に捉える必要がある。

（３）駅前駐車場の充実

市民アンケート調査では、市中心部の魅力を高め、活性化していくために必要な取組みとして、「駐輪場や駐車場の整備」が多数あがっており、自由意見のなかでも、「駅前の駐車場が不足している、使いづらい」といった指摘がされています。

地域住民の生活利便性の向上に向けて、交通結節点であるJR行田駅及び秩父鉄道の各駅においては駐車施設を充実するなど、自転車や自動車とバス交通・鉄道との乗り継ぎの円滑化を総合的に進める必要があります。

＜市民アンケート調査結果＞

・市中心部の魅力を高め、活性化していくために必要な取組みとしては、「駐輪場や駐車場の整備」が 25.7%（12 項目中 4 番目）となっている。

＜地域別懇談会でのご意見＞

・駅の駐車場、駐輪場が狭い。（西部地域）

２）歩行者に快適なまちづくり

（１）安全で快適に歩いて暮らせるまちづくり

市民アンケート調査では、市のまちづくりを進めていくにあたり最も重要な取組みとして、「歩いて暮らせるまちづくりの推進」が多数あげられています。

市民まちづくり会議においても、「高齢者や子どもが安心して歩ける歩道が整備されていない」、「歩道に段差や傾斜が多く改善すべきである」とのご意見があがっています。

子どもからお年寄りまで誰もが快適な暮らしを営むためには、生活道路における歩行者や自転車の安全を確保する必要があります。

今後の少子化・超高齢社会に対応するには、多様な都市機能を集約した市街地において市民が集える場所を確保するとともに、子ども、高齢者、障がい者など、誰もが安全で快適に不自由なく歩くことのできる歩行者空間の形成を図る必要があります。

＜市民アンケート調査結果＞

・市のまちづくりを進めていくにあたり、最も重要な取組みとして、「歩いて暮らせるまちづくりの推進」が 22.0%となっている。（16 項目中４番目）

＜地域別懇談会でのご意見＞

・高齢者や子どもが安心して歩ける歩道が整備されていない。（中心部地域）

＜市民まちづくり会議からのご意見＞

・歩道に段差やスロープ（傾斜）が多い。
・歩道の幅員が狭い道路を改善する必要がある。
・みんなが安心して出歩けることでまちの活性化に繋がることから、ユニバーサルデザインによる歩道の整備（歩道のバリアフリー化など）を優先的に行う必要がある。

３）自転車利用者に快適なみちづくり

（１）自転車利用を促進する道路環境の整備

本市では平坦な地形を活かしたサイクリングロードの整備を進めていますが、市民まちづくり会議においては、連続性が不十分であるとのご意見や、生活道路においても歩行者と自転車が安心して利用できる交通環境が必要であるというご意見があがっています。

自転車交通は環境に優しい交通手段であり、今後のまちづくりにおいては来訪者の回遊性向上を図るため、自然や歴史を巡るサイクリングロードなど既存の地域資源を活用した自転車交通環境を充実させる必要があります。

＜市民まちづくり会議からのご意見＞

・歩行者と自転車が安心して利用できる道路が必要である。
・平坦な地形や水と緑を活かしたサイクリングロードの整備が進んでいるが、一部、自転車道がつながっていない箇所の整備が必要である。
・自転車の走行も考慮した計画づくりも必要である。

４）広域圏における都市間アクセスの強化

（１）広域幹線道路の整備促進

国道17号熊谷バイパスや国道125号行田バイパスなどは、本市の産業振興や観光・交流の促進において重要な役割を担う広域幹線道路です。

市民まちづくり会議では、高速道路へのアクセス利便性を向上させる必要があるとの指摘があがっています。

今後も産業振興や観光交流における都市間の連携強化、市民の生活利便性の向上、企業誘致の優位性の強化などに向けて、圏央道や高速道路のインターチェンジとのアクセス利便性を高めていく必要があります。

＜市民まちづくり会議からのご意見＞

・高速道路へのアクセス利便性を向上させる必要がある。

＜都市計画マスタープラン策定委員会からのご意見＞

・次の時代を担っていく産業をどこにどのように計画していくのかを考える上で、土地利用や広域交通ネットワークの考え方が重要である。

3　自然環境及び公園・緑地に関する課題

本市には、利根川をはじめ忍川や武蔵水路などの河川や水路が幾重にも流れ、豊かな水辺環境が形成されています。

また、恵まれた自然環境を活かしたさきたま古墳公園、水城公園や古代蓮の里などの広域型の公園から身近な公園まで、公園や緑地が数多く存在しています。

豊かな水と緑は多様な生物の生育環境を形成するとともに、環境保全機能も有しており、今後も水と緑のまちにふさわしい自然環境として維持・保全していくことが求められています。

さらに、都市と自然が共生する本市特有の住環境をより豊かなものにするため、河川や水路、公園や緑道などの環境整備と適切な維持管理を推進する必要があります。

１）水と緑のまちにふさわしい自然環境の維持保全

（１）豊かな自然環境や農地の保全

市民アンケート調査では、ゆとり、うるおいの項目について、集落や田園などの農村風景の美しさや、水や緑など自然の身近さや豊かさに対する満足度が高い傾向があります。

河川や水路の改良、公園・緑地などの整備にあたっては、自然の生態系への影響に配慮し、良好な自然環境を維持・保全する必要があります。

また、農地や社寺林、屋敷林などについては、引き続き保全する必要があります。

更に、水と緑の自然環境を再生する取組みにより、受け継がれた自然環境を守り、育てる必要があります。

＜市民アンケート調査結果＞

・ゆとり、うるおいについて、「満足」と「ほぼ満足」を合わせた割合は、「集落や田園などの農村風景の美しさ」が 77.6%、「緑や水など自然の身近さや豊かさ」が 76.2%で高くなっている。

＜市民まちづくり会議からのご意見＞

・市内には、自然の風景から歴史的な資源まで、様々な地域資源が存在している。

＜子ども会議でのご意見＞

・豊かな自然とのどかな田んぼを残していきたい。

・緑をもっと増やしたい

＜都市計画マスタープラン策定委員会からのご意見＞

・「次の時代に必要なもの」というのはキーワードであると思う。周りがやっていない、本市特有のものとして 21 世紀に何を残せるかということを議論したい。「水」は本市のキーワードだと思う。

・「行田らしさが光るまち」の課題の設定にある「水と緑のまちにふさわしい自然環境の維持・保全」は、行田にとって生命線である。

・「低炭素都市の創出」は、21 世紀が環境の時代であると考えると、もっと強調するべきである。

（２）河川環境の美化と身近な水辺空間の創出

市内には忍川や酒巻導水路などの河川や水路が流れていますが、生活排水の流入や渇水期の水流減により水辺環境が悪化することがあり、市民まちづくり会議では、河川や水路の水質浄化に優先的に取組む必要があるとの意見があげられています。

河川や水路については、市民の快適な生活環境の一部として河川環境の美化を図るとともに、市民や来訪者が河川に親しむことのできる身近な水辺空間を創出していく必要があります。

＜市民まちづくり会議からのご意見＞

・水がきれいになると、動植物の生態系が豊かになる。また、水辺が楽しくなり、人が集まると、一人ひとりが「きれいにしよう」という気持ちを持つようになる。まずは「きれいな水がある行田」を実現することが必要である。河川や水路が生活排水の流入や渇水期の水流減のために臭うことがあり、水城公園や忍川の水質浄化は、早期に取り組む必要がある。

・水と緑を感じられる地域資源として、市民が水辺を安全に気持ちよく楽しむことが出来るような環境づくりが必要である。

（３）河川や緑道、公園等の整備と維持管理

市民まちづくり会議においては、市民が集まり楽しめる魅力的な公園、広場、緑道等を充実するべきであるとの意見があげられています。

本市には水城公園やさきたま古墳公園、古代蓮の里などの、市民や来訪者を対象とした広域型の公園やさきたま緑道などが整備されていますが、より一体感や連続性があり散策を楽しめるような環境整備が必要です。

また、豊かな自然環境を活用した、市民や来訪者が集える魅力ある公園の更なる整備と、河川や緑道等が一体となって回遊性を創出する、水と緑の環境整備も必要です。

＜市民まちづくり会議からのご意見＞

・人が集まり楽しめる魅力的な公園、緑道、広場などを充実する必要がある。

・公園の整備については、市民が広く利用できるオープンスペースの整備が必要である。

・水と緑を感じられる地域資源を、市民が安全に気持ちよく楽しむことが出来るような環境づくりが必要である。

＜都市計画マスタープラン策定委員会からのご意見＞

・公園や公共公益施設など色々なものが市内には点在しているが、週末に市民がそこに行けばゆっくり遊べるという場所をつくる必要がある。

２）公園整備による住環境の向上

（１）身近な公園・広場等の計画的な整備

市民アンケート調査では、居住環境の満足度について、身近な遊び場や公園の整備状況の満足度が低い傾向がみられます。

市民まちづくり会議や子ども会議においても、身近に子どもが安全に利用できる公園・広場の整備や、高齢者を対象とする健康づくりができる環境整備を望む意見があがっています。

生活環境の快適性や利便性の向上に向けて、地域コミュニティ形成の場となる公園づくりに、市民とともに取組んでいく必要があります。

＜市民アンケート調査結果＞

・居住環境の満足度について「身近な遊び場や公園の整備状況」は 45.9%となっており、他の項目と比較して低めになっている。

＜市民まちづくり会議からのご意見＞

・利用率が低い公園や、管理上の問題がある緑道や公園を改善する必要がある。

・地域によっては高齢化が更に進むため、、高齢者を対象とする健康づくりができる環境整備が必要である。

＜子ども会議でのご意見＞

・子どもが安全にのびのびと遊べる公園や広場がたくさんほしい。

＜地域別懇談会でのご意見＞

・高齢者が集まったり幼児を安心して遊ばせたりすることのできる公園や施設が少ない。（南東部地域）

＜都市計画マスタープラン策定委員会からのご意見＞

・公園が少なく、公園施設が老朽化しているところもあるという市民意見も踏まえて、公園・広場などの公共施設を市民が暮らしやすいようにどのように配置していくかを検討する必要がある。

（２）公園・広場等の維持管理の充実

市民まちづくり会議では、公園の適切な維持管理を求める意見があがっています。

公園・広場等の維持管理については、予防保全的な視点による、利用者ニーズに対応した公園施設の計画的な修繕と更新が必要です。

＜市民まちづくり会議からのご意見＞

・除草作業などがきちんと行われている公園もあるが、手入れがされていない公園もあり改善する必要がある。

・市街地における空地の管理を行なう必要がある。

4　生活環境に関する課題

人口減少社会を迎え、社会増による定住人口の確保を図ることは、本市の重要な課題であり、中心市街地や農村集落地など、それぞれの地域で暮らす市民の生活環境の利便性や快適性の充実が求められています。

さらに、地震や火災、水害などの災害に対する安全性の向上や防犯対策の充実など、安全に安心して住み続けられる生活環境へのニーズはより一層高まっています。

また、生活環境の改善および良質な住環境の形成に向けて、上・下水道やごみ処理施設などの市民の暮らしを支える供給処理施設の充実も必要です。

１）市民の日常を支える生活環境の充実

（１）高齢者・要介護者の生活環境の向上

市民アンケート調査では、居住環境に関して、「日当たりや風通し」や「音や振動などの静けさ」に対して70歳以上の世代の満足度が低くなっています。

今後は超高齢社会に対応した公営住宅や、高齢者向けの共同住宅などの整備の促進が求められるとともに、公共公益施設や道路・公園などの都市基盤施設においては、ユニバーサルデザインによる高齢者・要介護者に優しい整備が必要です。

また、農村集落地などの周辺地域においては、公共交通を主要な交通手段とする高齢者・要介護者のニーズに対応した移動手段の確保が必要です。

＜市民アンケート調査結果＞

居住環境の満足度について年代別にみると、次のとおりである。

・「日当たりや風通し」：10～30 代（88.4%～90.0%）、40 代以上（79.5%～85.6%）

・「音や振動などの静けさ」：10～30 代（70.0%～71.3%）、
40～50 代（68.2%～73.3%）、60 代以上（62.4%～67.0%）

＜市民まちづくり会議からのご意見＞

・地域によっては交通機関や道路網が十分ではなく、利便性の向上が必要である。

・高齢社会に向けた地域で支え合うコミュニティの維持に向けた取組みが必要である。

＜子ども会議でのご意見＞

・お年寄りが楽に暮らせるように、坂の少ないまちにしたい。

・車椅子の利用者のために段差を減らしてほしい。

・一人暮らしのお年寄り向けのスーパーがほしい。

＜地域別懇談会でのご意見＞

・近所に徒歩や自転車で行ける商店がない。（南東部地域）

＜都市計画マスタープラン策定委員会からのご意見＞

・少子化・高齢化を迎える市の将来都市像としては、高齢者対応型のまちづくりを考える必要がある。

・若い世代の人口を集める一方で、高齢者に対応できるようなまちづくり構想も視野に入れる必要がある。

（２）子育て世代の生活環境の向上

市民アンケート調査では、暮らしやすさに対する満足度を年代別にみると、子育て世代である40歳代の満足度が、他の年代と比較して低くなっています。

子育て世代の生活環境の利便性・快適性の向上に向けて、子育て支援施設の充実が必要です。

居住環境の満足度について年代別にみると、「身近な遊び場や公園の整備状況」に対して10歳代において満足度が低くなっています。

子どもの成長を支える身近な学習の場や公園・広場などの遊びの場の充実が必要です。

＜市民アンケート調査結果＞

・暮らしやすさについて年代別にみると、子育て世代である 40 歳代、50 歳代の満足度が他の年代と比較して低い。

・居住環境の満足度について年代別にみると、「身近な遊び場や公園の整備状況」について 10 歳代の満足度が低い。

＜地域別懇談会でのご意見＞

・周辺に保育所などの子育て支援施設や、地域住民が交流できる公園や施設が少ない。（北部地域）

＜都市計画マスタープラン策定委員会からのご意見＞

・周辺地域の学校では年々児童・生徒数が減少傾向にある。若い世代が市に住み続けられるように、子どもたちを育てられる環境をつくることが必要である。

・人口の構成が重要であり、若い世代の方に住んでもらう必要がある。

（３）地域交流施設の充実

市民アンケート調査では、「地域の交流」において年代が上がるほど満足度が低くなる傾向があります。

市民まちづくり会議においても、地域住民が交流できる公園や施設が身近に少ないという意見があがっています。

公民館や自治会館などの施設の充実や、小・中学校の活用などにより、地域コミュニティの活性化を図る必要があります。

＜市民アンケート調査結果＞

・コミュニティの満足度について年代別にみると、全体的に年代間の大きな差は見られないが、「地域の交流」においては、年代が上がるほど満足度が低めである。

＜子ども会議でのご意見＞

・元気な高齢者が安全に楽しく遊んだり、人と触れ合うことのできる場所があると良い。

＜地域別懇談会でのご意見＞

・周辺に保育所などの子育て支援施設や、地域住民が交流できる公園や施設が少ない。（北部地域）

２）安全で安心して暮らせる防災・防犯対策の充実

（１）災害対策の充実と老朽住宅等の耐震化

市民アンケート調査では、「地震や風水害への防災対策」や「地域での防犯・防災の取組み」の満足度が低めになっており、地震や台風被害などの自然災害に対して不安を感じている人の割合が高くなっています。

また、災害に強いまちづくりを進めるために必要な取組みとして、「河川の氾濫や浸水などに対する水害対策」や「避難場所や防災拠点として活用できる公園施設などの整備」が求められています。

安全・安心に対する市民ニーズの高まりに対して、局地的な豪雨や台風等による浸水などの水災害に対する河川・水路の治水対策や、地域ぐるみの防災対策の取組みを充実することが必要です。

また、公共公益施設の耐震化や、建築物の不燃化促進など、地震や火災に対する安全対策が必要です。

＜市民アンケート調査結果＞

・安全・安心の満足度について、「信号機、ガードレールなどの交通安全施設」が 56.1％で最も高くなっているが、「地震や風水害への防災対策」は 42.9%、「地域での防犯・防災の取組み」は 49.3%とやや低めになっている。

・安全・安心の満足度について年代別に見ると、「地震や風水害などへの防災対策」「信号機、ガードレールなどの交通安全施設」「地域での防犯・防災の取組み」については年代が上がるほど満足度が低くなる傾向がある。

・地震や台風被害などの自然災害に対して、「不安を感じている」が 64.7%で、不安を感じている人の割合が高くなっている。

・災害に強いまちづくりを進めるために必要な取組みとして、「河川の氾濫や浸水などに対する水害対策」が 61.5%で最も多く、次いで「避難場所や防災拠点として活用できる公園施設などの整備」が 51.8%となっている。

・コミュニティの満足度について年代別にみると「高齢者やこどもに対する地域での見守り活動」については、年代が上がるほど満足度が低くなる傾向がある。

＜市民まちづくり会議からのご意見＞

・平坦な地形のため、自然災害が比較的少ない地理的条件であるが、河川や水路が多く、集中豪雨などにより水害の危険性がある。

・大地震に備えた防災体制の構築が必要である。

・地域の拠点となる施設は、日常は住民の交流の場であるが、非常時にも活用できるような機能が必要である。

＜地域別懇談会でのご意見＞

・災害対策、特に水害対策が不十分である。（西部地域）

・商店街や幹線道路沿いには老朽家屋や空き家がある。（中心部地域）

（２）通勤・通学路等の防犯施設の充実

市民アンケート調査では、「照明灯、防犯灯などの防犯施設」の満足度が低く、特に通勤・通学をする若い世代の満足度が低い傾向がみられます。

また、年代が高くなるほど、「地域での防犯・防災の取組み」に対して満足度が低くなっています。

安全で安心して通勤・通学ができる環境整備が求められており、道路照明灯や防犯灯の充実が必要です。

＜市民アンケート調査結果＞

・安全・安心の満足度について、「照明灯、防犯灯などの防犯施設」は 41.8%とやや低めになっている。

・安全・安心の満足度について年代別にみると、「地域での防犯・防災の取組み」については年代が上がるほど満足度が低くなる傾向にある。

・「照明灯、防犯灯などの防犯施設」については、20 歳代の満足度が他の年代と比較して低めになっている。

＜子ども会議でのご意見＞

・街灯をもっと増やして夜でも安心して歩ける道にしてほしい。

＜地域別懇談会でのご意見＞

・防犯灯が少ないため、整備が必要である。（全地域）

３）市民の暮らしを支える供給処理施設の充実

（１）上・下水道の整備・更新・耐震化

市民アンケート調査では、「下水道やU字溝などの排水施設の整備状況」についての満足度が低めになっています。特に、北部地域や南東部地域などの郊外において、評価が低い傾向があります。

今後も効率的で効果的な下水道整備の推進と合併浄化槽の促進が求められており、また、災害時などにおける安定供給や適切な処理に向けた上・下水道施設の更新や耐震化など、計画的な整備が必要です。

＜市民アンケート調査結果＞

・居住環境の満足度について、「下水道やU字溝などの排水施設の整備状況」については 52.5%となっており、他の項目と比較して低めになっている。

（２）ごみ処理施設の計画的な運営・維持更新

施設の長寿命化に向けて、ごみ処理施設の計画的な維持・修繕が必要です。

また、自然環境と共生する水と緑豊かな環境都市として、ごみの減量化や資源の有効活用などの取組みを充実することが必要です。

5　景観に関する課題

本市には、市内を流れる河川・水路、のびやかに広がる田園風景など、水と緑の景観に恵まれています。また、忍城址やさきたま古墳群など、歴史を感じることができる地域資源が存在しています。

これからのまちづくりには、市民の生活環境にゆとりやうるおい、心地よさを与えるとともに、来訪者が住んでみたいと思えるような水と緑と歴史のまちにふさわしい景観の創出が求められています。

１）水と緑と歴史のまちにふさわしい景観の形成

（１）歴史的景観資源を活用した街並み景観の形成

市民アンケート調査では、景観形成への取組みに対する満足度は高くなっていますが、特に必要な景観としては、「歴史的な建造物や歴史的な街並み」とする意見が多くあがっています。

また、地域資源を活かしたまちづくりに必要な取組みとしても、「足袋蔵などの歴史的建造物などを活用した、行田らしい街並みの創出」をあげる意見が多くなっています。

市民の生活環境にゆとりやうるおいを与えるとともに、来訪者に歴史あるまちで快適に過ごしてもらうためには、忍城址や足袋蔵など歴史的建造物を活用した街並みづくりが必要です。

＜市民アンケート調査結果＞

・現行のまちづくりの取組みの評価について、「景観の形成」の満足度が最も高い。

・特に向上が必要な景観については、「歴史的な建造物や歴史的な街並み」が 23.0%（4 項目中２番目）となっている。

・地域の資源を活かしたまちづくりに必要な取組みとしては、「足袋蔵などの歴史的建造物等を活用した、行田らしい街並みの創出」が 34.0%（7 項目中３番目）となっている。

・市の景観づくりを進める上で特に必要な取組みについては、「景観計画の策定など、市全体の景観に関する指針づくり」が 40.5%で最も多く、次いで、「景観まちづくりを進める組織や団体、人材の育成や支援」が 19.1%、「市内の地域特性に合わせたきめ細やかなルールづくり」が 16.4%となっている。

＜市民まちづくり会議からのご意見＞

・歴史を感じる街並み（足袋蔵、裏道）や古民家、忍城址周辺の原風景でもある諏訪曲輪（すわぐるわ）周辺など、十分に活用されていない地域資源を活用する必要がある。

（２）水と緑の自然・田園景観の維持・保全

市民アンケート調査では、「集落や田園などの農村風景の美しさ」や「緑や水など自然の身近さや豊かさ」の満足度が高くなっています。

農村集落地におけるのびやかな田園風景や河川や水路の水辺の景観については、本市特有の貴重な自然景観として、維持・保全が必要です。

＜市民アンケート調査結果＞

・ゆとり、うるおいについての満足度は、「集落や田園などの農村風景の美しさ」が77.6%、「緑や水など自然の身近さや豊かさ」が 76.2%と高くなっている。

２）良好な市街地景観の形成

（１）市街地における良好な都市景観の形成

市民アンケート調査では、「住宅地や沿道などの街並みの美しさ」の満足度が低くなっています。

特に必要な景観として、「市中心部や駅周辺、幹線道路などの公共空間」や、「住宅地など普段生活している地域の街並み」が多数あげられています。

また、「市の玄関口であるJR行田駅周辺の利便性・魅力を高めるために必要なこと」として、「まちの顔としてふさわしい景観づくり」とする意見が多数あげられています。

市街地においては、屋外広告物や建築物等への規制や街路樹の整備などにより、良好な都市景観の形成が求められています。

また、JR行田駅周辺においては、市の玄関口にふさわしい景観形成が必要です。

＜市民アンケート調査結果＞

・ゆとり、うるおいについて、「住宅地や沿道などの街並みの美しさ」は 51.9%と、他の項目と比較すると低めになっている。

・特に向上が必要な景観については、「市中心部や駅周辺、幹線道路などの公共空間」が32.2%で最も多く、次いで「歴史的な建造物や歴史的な街並み」が 23.0%、「住宅地など普段生活している地域の街並み」が 19.4%となっている。

・「市の玄関口である JR 行田駅周辺の利便性・魅力を高めるために必要なこと」としては、「まちの顔としてふさわしい景観づくり」が 39.4%（8 項目中３番目）となっている。

６　産業振興・交流に関する課題

人口減少社会において、市の活力を維持するためには、多様な世代の人々が快適に働くことができる雇用の場を確保することが求められています。

また、忍城址やさきたま古墳公園など、市内外の人を惹きつける様々な地域資源があり、「歴史と文化」と「水と緑」を軸として結びつけ、活用することにより、地域産業の創出へとつなげていくことも必要です。

住み続けたいと思える、ここに住んでみたいと思えるまちづくりを実現するためには、まちの魅力を高め、市民と来訪者の交流機会を充実することが重要です。

１）新たな雇用の場の創出

（１）多様な産業に対応できる産業基盤の整備

子ども会議においては、「市内で働く場所を増やしてほしい」「工場をつくるなど、行田の産業が活発になってほしい」との意見が多数あげられています。市民まちづくり会議では、「産業特区などをつくって企業を誘致し、人を呼び込む必要がある」という意見があげられています。

情報通信や環境、エネルギー分野など新たな産業の進出に対応可能な産業基盤を充実するなど、市内に幅広い世代の人々が快適に働く場所があり、活力のあふれるまちづくりが必要です。

＜市民まちづくり会議からのご意見＞

・産業特区などをつくって企業を誘致し、人を呼び込む必要がある。

＜子ども会議でのご意見＞

・市内で快適に働ける場所を増やしてほしい。

・工場をつくるなど、行田の産業が活発になってほしい。

＜都市計画マスタープラン策定委員会からのご意見＞

・観光や商業の発展はもちろんだが、人口を増やして働き住んでもらうことが重要であり、産業団地の誘致など、若い人や働く人など幅広い世代が集まるような計画づくりをしていく必要がある。

・工業用地に進出したいという企業から相談があったが、市内に適当な土地がなかった。企業誘致の問題点は、幹線道路の輸送量や工業用水などのインフラ整備である。

・工業団地の整備や大学などを誘致により、様々な世代が集う都市をイメージする必要がある。

・雇用環境の拡充を目指し、企業や研究施設等の誘致、地場産業の育成、観光や農業での雇用拡大を図る必要がある。

２）地域資源を活用した地域産業の創出

（１）忍城址・足袋蔵など歴史・文化資源を活用した地域産業の創出

市民まちづくり会議では、自然や歴史に関する既存の地域資源を、交流・観光資源として有効に活用するべきであるという意見や、市内に埋もれている豊かな地域資源を発掘し活用するべきであるという意見が多数あげられました。

交流人口を増加するには、地域資源を核として観光産業を充実し、祭りや食文化など来訪者・観光客のニーズの多様化に応えるとともに、本市の歴史・文化資源のPRの更なる強化が必要です。

また、忍城址や足袋蔵などの歴史資源を活用した新たな地域産業を創出するには、高次教育施設や民間事業者との連携が必要です。

＜市民まちづくり会議からのご意見＞

・市内には、自然の風景から歴史的な資源まで、様々な地域資源が存在している。
・観光客にとっての魅力となる、行田ならではの食べ物や特産品がない。
・重要な産業の一つである農業について、体験型農業や農産物を観光資源として活用していくことが必要である。

＜都市計画マスタープラン策定委員会からのご意見＞

・本市の持っている最大の宝は、歴史、文化、埼玉県名発祥の地であるさきたま古墳である。世界遺産にしようという市民の方々と連携してはどうか。

３）観光資源ネットワークの構築

（１）忍城址とさきたま古墳公園・古代蓮の里等の観光資源のネットワーク強化

市民アンケート調査では、地域の資源を活かしたまちづくりに必要な取組みとして、「さきたま古墳群など市を代表する文化財等の重点的な保全と活用」と「地域資源を結ぶ道路やサイクリングロード、公共交通機関の充実」とする意見が多数あげられています。

市民まちづくり会議においても、数多くの地域資源が存在しているが、それらをつなぐルートや案内が十分に整備されていないことが大きな課題であるとする意見があげられています。

「歴史・文化」、「水と緑」を軸として、忍城址・さきたま古墳公園・古代蓮の里などの観光資源のつながりを強化し、来訪者の回遊性を高めるとともに、歩行者や自転車空間などを整備・充実することが必要です。

また、秩父鉄道及びJR各駅からこれらの地域資源へ円滑にアクセスできるように、市内循環バスなどの公共交通と、幹線道路ネットワークの充実による利便性の向上が必要です。

＜市民アンケート調査結果＞

・地域の資源を活かしたまちづくりに必要な取組みとしては、「さきたま古墳群など市を代表する文化財等の重点的な保全と活用」が 69.8%で最も多く、次いで「地域資源を結ぶ道路やサイクリングロード、公共交通機関の充実」が 46.6%となっている。

＜市民まちづくり会議からのご意見＞

・平坦な地形や水と緑を活かしたサイクリングロードの整備が進んでいるが、一部、自転車道がつながっていないなど、回遊性の確保を図る必要がある。
・点在する地域資源を歩いて楽しめる散策道がない。
・本市には、忍城址、水城公園、さきたま古墳公園、古代蓮の里、小埼沼など、他市に誇れる数多くの地域資源が存在しているが、それらをつなぐルートや案内が十分に整備されていないことが大きな課題である。

（２）観光案内所や道路案内板等の充実

市民まちづくり会議では、道路標識が少ない、案内看板が分かりづらい、観光マップが統一されていないなど、観光客に対して観光に関する情報が伝わりにくいという意見が多数あげられました。

市民や来訪者が時間をかけて回遊し滞在できるように、物産館や飲食店、駐車場やベンチ・トイレなどの施設の充実が求められています。

また、観光客の利便性を向上するため、鉄道駅における観光案内施設の充実や分かりやすい道路案内板や観光マップ等の情報提供の充実が必要です。

＜市民まちづくり会議からのご意見＞

・街中にベンチやトイレなどが少なく、市民が散策する時にゆっくりと過ごせる施設の充実が必要である。
・観光客が訪れたときに利用できる飲食店や駐車場、宿泊施設などが少ない。
・道路標識が少ない、案内看板（地図）が分かりづらい、観光マップが統一されていないなど、観光客に対して観光に関する情報が伝わりにくく、地域資源に関する情報を伝える手段を充実する必要がある。